

# 宝治合戦と上総千葉氏の滅亡



大柳館 睦沢町

上総権介秀胤の館。宝治合戦の際、三浦氏と姻戚関係のあった秀胤は、幕府より追討を受けた。



北条時頼像 建長寺蔵

北条時政の子義時の曾孫。幕府執権。有力御家人三浦泰村と対立し、宝治元年(1247)、三浦氏や上総千葉氏を滅亡させる



法華堂(御影堂)跡

頼朝の御影堂。安達氏の攻撃を受けた三浦介泰村以下の三浦一族は、頼朝の持仏堂(法華堂)に入り自刃した。



安達泰盛 『蒙古襲来絵詞』より

泰盛は、宝治合戦の最大の功労者。北条時頼の命で三浦泰村を攻撃する。

千葉氏は、千葉介常胤の代に上総国や下総国を中心に広大な領地を得て、鎌倉幕府の中でも有力な御家人に成長しました。この領地は常胤の子胤正にひきつがれ、さらに常胤の孫に引き継がれましたが、大部分は、成胤と常秀に伝わりました。このため千葉氏の領地は、上総千葉氏(常秀)と下総千葉氏(成胤)に大きく分けられました。上総千葉氏は、常秀の子秀胤の代に幕府の有力御家人であった三浦氏と親戚となり、評定衆に任命されるなど大きな勢力を振りましたが、北条氏と三浦氏との争いにまきこまれて滅び、上総国の領地は幕府に没しゅうされました。この事件で千葉氏の全体の領地は大きく減少しました。

※ 北条氏・鎌倉幕府の執権。

※ 評定衆・鎌倉幕府の最高機関。